役員エッセイ

大通公園を望む窓辺から

北海道の魅力に惹かれて来学する留学生たち

常任理事　村上（むらかみ）　学（まなぶ）

私の所属する北海道大学の基本理念の一つに国際性の涵養がありますが、北海道大学医学部では、臨床実習を希望する留学生を多く受け入れています。令和７年度は年間26名、令和８年度はその倍近くの51名が来学する見込みです。アジアはもちろん、ヨーロッパやオセアニアからも多くの留学生が来学しています。海外の医学校では、他国で臨床実習を行わせて単位を取得させるプログラムも多くなってきています。

私たちが諸外国の都市について考える時、首都は思い浮かんでもそれ以外は難しいことも多いでしょう。それを考えると、日本の中で北海道を選んで来てくれる留学生が、世界にこれだけ多くいるのは興味深いことです。北海道を選んだ理由を彼らに尋ねたところ、日本の高度先進医療が学べるなどの医学的理由以外にも、大学宿舎が利用できる、四季折々の景観が美しい、観光地が魅力的で食べ物が美味しいなど、幾つもの好条件を挙げていました。特に、シンガポールや香港、タイなど南国の学生からは、人生で初めて雪を見て感動したなど、自国の特性とは全く異なる北海道の人気が非常に高く、学内選抜まで行われるそうです。

受け入れる側の診療科からも、若手研修医の国外学会参加や留学に向けた準備教育、医学生の異文化理解や英語教育の機会としての活用など、肯定的な意見をいただいております。医師国家試験制度の違い、将来の診療科選択制度の違いなど、世界各国で全く異なる医療事情も、留学生がいれば現地の情報を入手することができます。

北大銀杏並木で綺麗な写真を撮った、週末は小樽と登別に行ってきたと楽しそうに話す留学生の様子を見ながら、日々そこで生活している私たちには当たり前すぎて気づかない北海道の魅力が、まだまだ多く隠されているのではないかと、可能性を感じずにはいられません。

大通西６丁目

常任理事　末岡（すえおか）　裕文（ひろふみ）

北海道医師会の常任理事に就任してから、大通西６丁目の北海道医師会館に通っています。それまでは、札幌市医師会の仕事をしていましたので、北海道医師会館の前を通って、西19丁目の札幌市医師会館に通っていました。実は、それ以前には、北海道保険医会の仕事をしていましたので、北海道医師会館に通っていた時期がありました。医師会館内で、保険医会関係者で知っている方とお会いした時には「ご無沙汰しております。別なフロアーにいますので、またよろしくお願いいたします」とご挨拶させていただいております。

大通公園といえば、２月の雪まつりと６月のYOSAKOIソーラン祭りの時期は、交通規制があり、医師会館で会議があるときは、開始時間がとても気になります。これは、札幌市医師会館に向かう時も同じ気持ちでした。夏のビアガーデンには、クリニックのスタッフと一緒に行って、楽しい時間を過ごしています。オータムフェストも行ける時には、行っておいしいものを食べてきます。いずれの期間も、会議の時は、楽しそうに食べたり飲んだりしている人々を横目に、医師会館の中へ入っていきます。そして、原稿を書いている今の時期（12月）は、ホワイトイルミネーションとミュンヘン・クリスマス市が開催されています。寒いですが、きれいなイルミネーションを楽しんで、クリスマス市では、小物を買って、クリニックに飾っています。

西６丁目へ再び通うようになってから、ほぼ半年が過ぎました。これからも、会議の開始時間を気にしながらではありますが、季節ごとに咲くきれいな花を横目に通いたいと思います。ちなみに、西６丁目も西19丁目も、ありがたいことに、クリニックから自宅への帰る途中に位置していて助かっています。